

基本方針 生産性の向上

重点戦略 **チャネル戦略・IT戦略**

「スマホバンキングによる非来店サービスの拡充」や「データ利活用の高度化」について、全行をあげて段階的に取り組んでいくことで、新たな顧客価値の提供や生産性の向上を図っていきます。

「時代は、通帳レス。」

百五銀行は、お客さまにご来店いただくことなく、「いつでも」「どこでも」「かんたんに」お取引いただける利便性と、ペーパーレスによる環境にも優しいサービスの実現に向けて「百五銀行スマホバンキング」の拡充を進めていきます。今後もお客さまのニーズ変化に合わせた最適なサービスの構築をめざします。



顧客利便性の向上

振込にかかる各種申請手続き\*に要する時間を短縮しました。本人確認(eKYC)の判定業務を24時間365日体制で実施するよう変更し、判定後の手続きを自動化しました。これにより、お時間をいただいていた振込にかかる各種申請手続きは即日完了し、お客さまの利便性向上を図りました。

\*電話番号変更のお手続き、振込限度額変更に必要な本人認証

不正アクセス検知システムの導入

モニタリングの品質向上のため、不正アクセス検知システムを新たに導入しました。全てのスマホバンキングユーザーを対象にアプリ起動時の不正アクセスを検知・モニタリングすることで、金融犯罪からお客さまの口座を守ります。

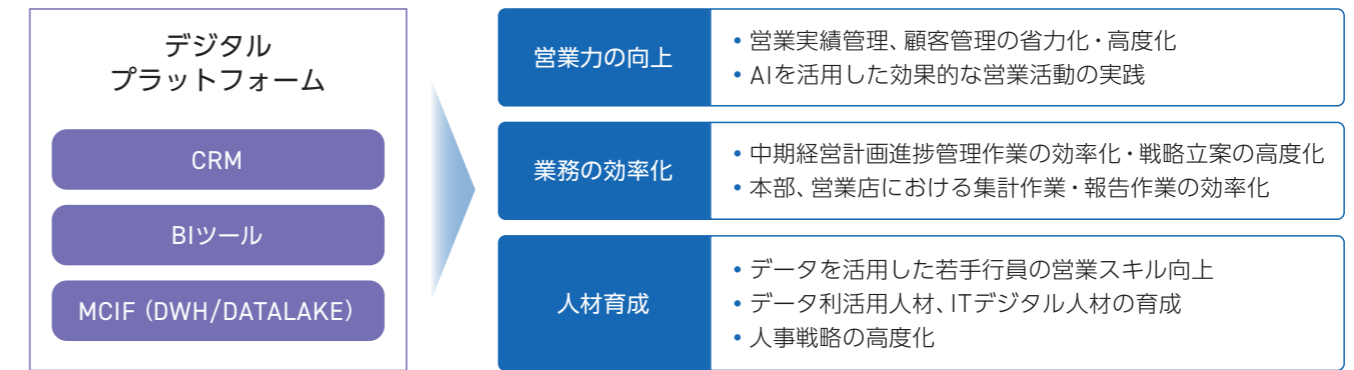
アプリ機能の他金融機関販売について

2023年5月より開始した、百五銀行スマホバンキングアプリの金融機関向け販売(BIPROGY株式会社との協業)は、2024年5月時点で1銀行さま、4信用金庫さまにて採用されました。今後も非対面チャネル対応を検討する金融機関に向けて新たなサービスを提供します。

行内データの一元化とデータ利活用の拡大

中期経営計画「未来へのとびらII」において、行内に散在するさまざまなシステムやデータを可能な限り一元化し、「誰もが」「いつでも」「簡単に」活用できる「デジタルプラットフォーム」を構築することで、営業力の向上や、業務の効率化、人材育成に役立てています。

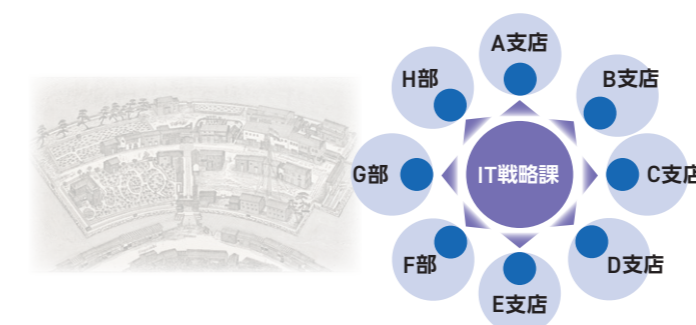
当行におけるデータ利活用の取組みは、DX戦略とあわせて経営企画部IT戦略課が中心となって進めており、データ利活用の観点で営業店・本部の業務効率化・営業活動高度化に向けた支援活動を行うことで、組織全体への浸透を図っています。



データ利活用人材の育成 (行内トレーニー制度)

データ利活用やDXに関するマインドを行内で醸成していくため、営業現場の行員等を対象に、自身の通常業務と複業で本部のデータ分析・DX業務を体験できる研修制度「データ利活用中期トレーニー(行内複業型)」を開催し、課題解決のためのデータ利活用や、データのビジネス展開に必要なスキルを身につけられるようにしています。

当研修を継続的に開催していくことで、行内各所に研修経験者を基点に本部と現場のパイプとなる「出島」を築き、中長期的に行内に「データドリブン」な思考を広めていくことをめざしています。



データ利活用トレーニー参加者の声

- 自部署の営業活動における課題と対策方法を自分で考え、作成したリストの活用・結果分析を実践的に学びました。
- データ分析に強くなるために必要なものが詰まった研修です。
- 体系的な知識や考え方を学べ、他部署や職位の異なる方との4か月にわたる交流は貴重な経験でした。



「実践的な」データ利活用を学ぶ

学んだこと(=データ利活用の勘所)を各部署で広めてもらう  
→ 受講者それぞれが「出島」として機能